

ビジュアルジャパンを子会社化

86・8%の株取得 書店DX化推進

光和コンピューターはこのほど、大日本印刷（DNP）が保有するビジュアルジャパンの株式86・8%を取得した。ビジュアルジャパンを4月1日付でグループ会社とし、書店のDX化をはじめ、小ロット・短納期を実現するデジタル印刷を加速させていく。

多田元晴氏が社長に就任

今回の株式譲渡により、ビジュアルジャパンの代表取締役社長に光和コンピューターの多田元晴取締役が就いた。

ユアルジャパン前社長が就き、堂垣孝夫氏（二ツ橋マネジメント常務）が重任する。

ビジュアルジャパンの社員25人も継続雇用。東京・千代田区神田神保町にある事務所も現在のまま。

光和コンピューターは

出版社向け基幹システム「出版ERP」のほか、電子書籍管理Saasシステム「PUBNAV I」、書店POSシステム「K-POS」など、出版・書店ソリューションを展開。出版社350社、書店90法人・1000店舗、取次会社9社、

倉庫会社4社に各種システムを提供している。

ビジュアルジャパンは書店向けの「WEBPOS」を提供し、両社のシステムを導入する書店は計約1500店超えという。今後、連携によるスケールメリットを活かして、書店のDX化をさらに推進していく考えだ。

また、DNPが提唱する「未来の出版流通プラ

ットフォーム」の構築にも協力していく。適時、製造・流通・販売して読者ニーズに応えるデジタルシヨートラン(DSR)と呼ばれるデジタル印刷をシステム面でサポートし、出版流通改革を推進める。

DNPが手がける「復刊支援サービス」においても、出版社が保有する復刊可能なタイトル情報と書店現場のニーズを効率的に結びつける仕組みを両社で開発し、読者と業界に寄与していく。

長）、野田透氏（同取締役）、山田徳廣氏（ビジ